

11月19日 第10日目

2日目のフィールドワークは、2年石川・工藤、1年大平・澤村班に同行する。このグループは観光による岩手のグローバル化をテーマとしており、その具体的な方策としてSNSの活用やスポーツを通じた交流促進、外国人にもやさしいサインの普及などを仮説として掲げている。

この日のスタートは台湾の東大に当たる国立台湾大学。若者から意識調査をするのが目的である。

ツアーリーダーのセレナ（女性、ベトナム出身）はなかなかアグレッシブで、今日と明日でいったいどれくらいのデータが欲しいのかを聞くと、それを実現すべく徹底して聞き取りを遂行する。まず初めに案内されたのがいわゆる学食。食事をしている人たちを片っ端からつかまえて協力を求める。前日の森林公園でもそうであったが、座っている人に声をかけた方が答えてくれる確率が圧倒的に高い。

学食でひとしきり聞き取りを行うと、続いては講義棟へ。おもむろに入った教室で生徒に講義が何時から始まるか聞くセレナ。開始まではやや時間があるようで、早めに来て自習したり軽食を摂ったりしている生徒が多数。次なる対象は彼らである。急に現れた制服姿の日本人たちにやや戸惑いながらも、多くの学生さんたちが快く協力して下さった。

最後に、教授など大人を対象に調査をしたいと話す工藤を連れたセレナは、大学の学生課へ。そこにいた職員に工藤が用意したアンケート用紙を配り、多数の大学職員から一度に回答を得ることに成功する。

こうして石川・澤村班は2日で100以上のデータを、工藤・大平班も工藤が用意したアンケート用紙がなくなるほどの成果をおさめ、台湾大学を後にした。

続いて台北市の新しいシンボルとなっている「台北101」へ。500m以上という、東京タワーとスカイツリーの間ほどの大きさのタワーである。89階までのエレベーターの速さがギネス記録にもなったことで知られている。乗ってみると確かに早い。突風が吹きすさぶ屋上からは、巨大都市台北が一望できた。

そしてそのままフードコートで昼食と少しだけ自由散策のショッピングも。まさに日本のスカイツリー周辺のような感じで、日本人はじめ外国人観光客がそこかしこに居た。

その後ほど近いところにある四四南村という、退役軍人のコミュニティがそのまま残り、観光スポットとして活用されている場所へ。来歴も見た目もまさに盛岡市内の桜山地区という趣である。由来を説明した展示施設があいにく休館日に当たっていたため、写真を撮ったりする程度で終わったが、今こうして振り返ってみるとこの経験もまた盛岡のインバウンド対策へのヒントになりうるのかもしれない。

これにて17時までのフィールドワークは終了であったが、大平・工藤の柔道部コンビは自主調査として台湾大学を再訪し、柔道部の練習に参加することを通して、台湾における柔道の実態を調査した。

柔道場がある総合体育館は、野球のドームを思わせる壮大な建物で、たった3人で乗り込んでいくとなると、否が応でも緊張してしまう。

訪れた柔道場は冷房を備え、2面分の試合場を伴う立派なものであった。40人ほどの所属者がいるという大所帯の主将は意外なことに女性。背格好も大平と近く、最初こそ互いに緊張していたものの、いざ稽古が始まるとすぐに打ち解けることができた。稽古は少々異なるところはあれ、基本的には日本のものと大きな違いはなかった。最後の研究の時間には、大平が大学生に背負い投げを教える場面も見られた。

幸い日本語を話せる学生が何人かいたため、稽古後にはしっかり盛岡一高柔道部の宣伝も忘れない。顧問である教授をはじめ、みなさんに歓迎していただき、最後はお土産の記念品とともに木曜日の稽古にもまたおいでというお誘いまで頂戴して帰ってきた。スポーツは容易に国と国との壁を越えられるということを身をもって実感する機会となった。

彼女の奮闘がきっかけとなり、いつの日か、今度は日本で台湾の学生を迎える日がくれば、柔道部顧問の一人としてもこれほど嬉しいことはない。

調査に協力して下さった方と



学生課への突撃取材



89階からの眺望



台湾大柔道部の皆さん謝謝！

